3つの分類システムにおける妊婦の肥満区分と日本の肥満妊婦の転帰：単一施設での後向き研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉村, 亮, 幸村, 友季子, 成味, 恵, 磯村, 直美, 小田, 智昭, 田村, 直顕, 内田, 季之, 鈴木, 一有, 杉村, 基, 金山, 尚裕, 伊東, 宏晃 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004032

DOHaD 研究 (ISSN 2187-2597)
2021 年 第 9 巻 第 2 号 94 頁

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会
＜一般口演 1＞

3 つの分類システムにおける妊婦の肥満区分と日本の肥満妊婦の転帰：単一施設での後向き研究

１磐田市立総合病院産婦人科２浜松医科大学産婦人科、

杉村　亮
幸村友季子[2]、成味恵[2]、磯村直美[2]、小田智昭[2]、田村直顕[2]、内田季之[2]、鈴木一有[2]、杉村基[2]、金山尚裕[2]、伊東宏晃[2]

【目的】日本において 2020 年 3 月以前は、妊娠前の BMI25 以上の場合、妊婦は肥満と定義されていた。しかしながら、その肥満の定義は、Institute of Medicine（IOM）や American College of Obstetricians and Gynecologists（ACOG）の区分とは異なっている。今回、各肥満区分システムの評価を目的として、日本、IOM、ACOG における肥満区分において各々の周産期予後を比較した。
【方法】2010 年から 2019 年の間に当院で出産した 6,066 人の日本人の単胎妊婦を対象に後方視的コホート研究を行った。妊娠高血圧（以下 HDP）、妊娠糖尿病（以下 GDM）発症リスクにつき、普通体格妊婦を対照として、Logistic 回帰解析法を用いて、Odds 比（以下 OR）を算出し、比較検討した。
【結果】日本の妊婦の 2021 年 3 月以前の肥満区分によると、668 人（11%）の妊婦が肥満（妊娠前 BMI≧25）に分類され、OR は HDP(3.32)、GDM（3.39）、LGA(2.91)、帝王切開分娩（1.47）であった。 IOM の区分によると、過体重(妊娠前 BMI25.0-29.9)は 474 人（7.8%）、肥満（妊娠前 BMI≧30）は 194 人（3.1%）であった。特に HDP（1.23, 5.85）および GDM（2.48, 5.0）について、肥満妊婦で高い OR が観察された。 ACOG の区分では、474（7.8%）の妊婦が過体重(妊娠前 BMI 25.0-29.9)、141（2.3%）が肥満クラス I（妊娠前 BMI 30-34.9)、41（0.6%）が肥満クラス II（妊娠前 BMI 35.0-39.9)、12（0.2%）が肥満クラス III（妊娠前 BMI≧40)に分類された。肥満クラス III では、HDP（12.89）と GDM（8.37）、LGA で OR は有意に上昇していた。
[結論]HDP、GDM 発症に関して、2021 年 3 月以前の日本の妊婦の肥満区分は、低リスク妊娠の評価には役立つ。IOM の区分は高リスク妊娠を識別するために適用されうる。 ACOG の区分は、特に肥満クラス III はに該当する妊婦は少数であり、十分な評価とは言えないが、将来日本において肥満が増加した場合、日本人妊婦の HDP および GDM 発症リスクの段階的評価に役立つ可能性がある。